



『起業家フェリックスは12歳』を読んで

読む前は「ながい」と感じましたが、読み終わると
「フェリックスはこういう人物なんだ」と思えます。

たとえば、最後に店を売ることになったとき、フェリックスはたくさん
自分の意見を言っていました。もし僕がおなじことになったら、
いやだと思っても何も言えないかもしれないし、そのあと納得しても
仲直りできないかもしれないので、すごいと思いました。

トラブルもあったけれど、この本の12歳4人組はすごいと思いました。

(こうた)



『パフィン島の灯台守』を読んで

最初はただ、助けてくれたベンジャミンさんに^{おん}恩返しをするお話だと
思っていたけれど、学校に突然行かされたり、召集令状で海軍に行かされたり、

ドイツ兵に捕まったり、ドキドキするお話しでした。

でも、最後は家族ともベンジャミンさんとも会えて、

納得できるいいハッピーエンドでした。

(こうた)



『パフィン島の灯台守』を読んで

最初はベンジャミン・ポスルスウェイトさんに会えるとは思っていなかったけれど、最終的には何度も会えて、すごいなと思いました。

戦争があるから戻らないといけなくなった時は、

戦争でなくなる悲しい展開になると思ったけれど、

パフィン島に行って、「待ってたよ」と話していた時は、とても感動しました。

悲しい時から最後は明るくなって、とてもいいお話だなと思いました。

(ももか)



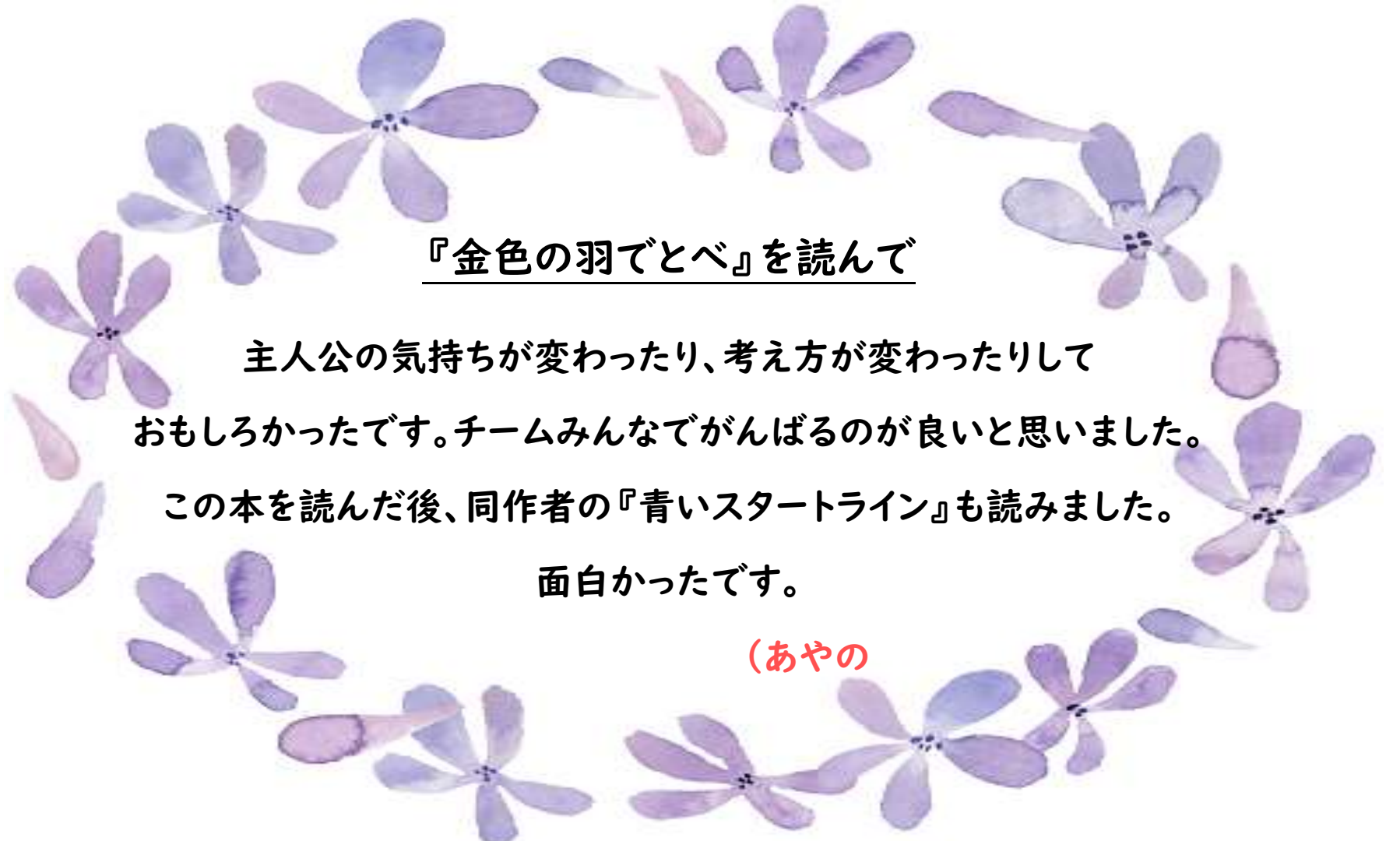
『金色の羽でとべ』を読んで

この本は、全国大会を夢みる6年生のバレーボール物語です。

主人公の空良は、ライトアタッカーになりたくて練習してきたのに、転校生の大和がきて、なりたかったポジションをとられて、セッターのキャプテンになりました。私だったら、そこでセッターの練習はつらくてしたくないけれど、空良はセッターの練習も頑張って、前のキャプテンから、キャプテンのコツを聞いて、チームをひっぱっていったのが、かっこいいと思いました。

そしてそれが、空良のすごい所だと思いました。

(みのり)



『金色の羽でとべ』を読んで

主人公の気持ちが変わったり、考え方が変わったりして
おもしろかったです。チームみんなでがんばるのが良いと思いました。

この本を読んだ後、同作者の『青いスタートライン』も読みました。

面白かったです。

(あやの)

『金色の羽でとべ』を読んで

最初、大和が来たときは、はく力がありそうで、こわそうな人だと思っていたけれど、

意外になおちゃんなどにやさしくしてあげていて、おどろきました。

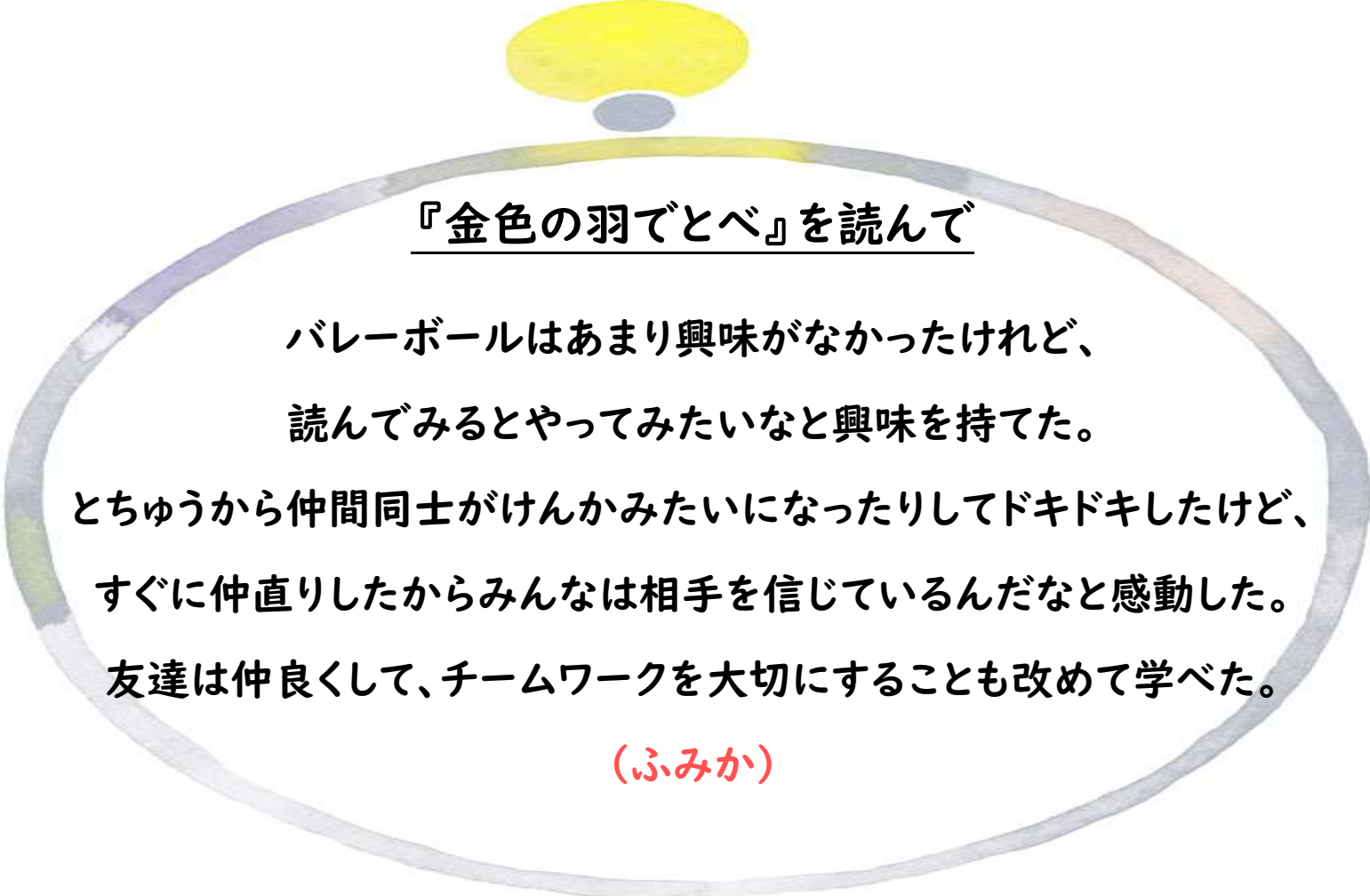
ポジションが発表されたとき、なんで空良がライトアタッカーじゃないの?と
思ったけれど、自分なりの勝ち方をセッターでも見つけてすてきだなと思いました。

かんとくが太一かんとくにかわったときは心配だったけれど、みんながまとまって

1点を大切にしていたので、これからも大切にしてほしいです。

光が丘に負けてしまっても、これからもがんばろうと思える人たちがすてきでした。

(ももか)



『金色の羽でとべ』を読んで

バレーボールはあまり興味がなかったけれど、
読んでみるとやってみたいなと興味を持てた。

とちゅうから仲間同士がけんかみたいになったりしてドキドキしたけど、
すぐに仲直りしたからみんなは相手を信じているんだなと感動した。
友達は仲良くして、チームワークを大切にすることも改めて学べた。

(ふみか)



『西の果ての白馬』を読んで

一番心に残ったのは「ネコにミルク」です。

なぜかという「ネコにミルク」では、小さな人が農家のおじいさんと決めた昔からの約束を農場をついだ若者がやぶってしまい、さらに小さい人になどなってしまいました。ですが小さい人は約束をやぶられ、どなられたにも関わらず、
「
小さい人は何も悪さをしませんでした。これは小さい人が若者を思いやる、やさしくてきれいな心の持ち主なのだからできたのだと思いました。」

(あいみ)



『西の果ての白馬』を読んで

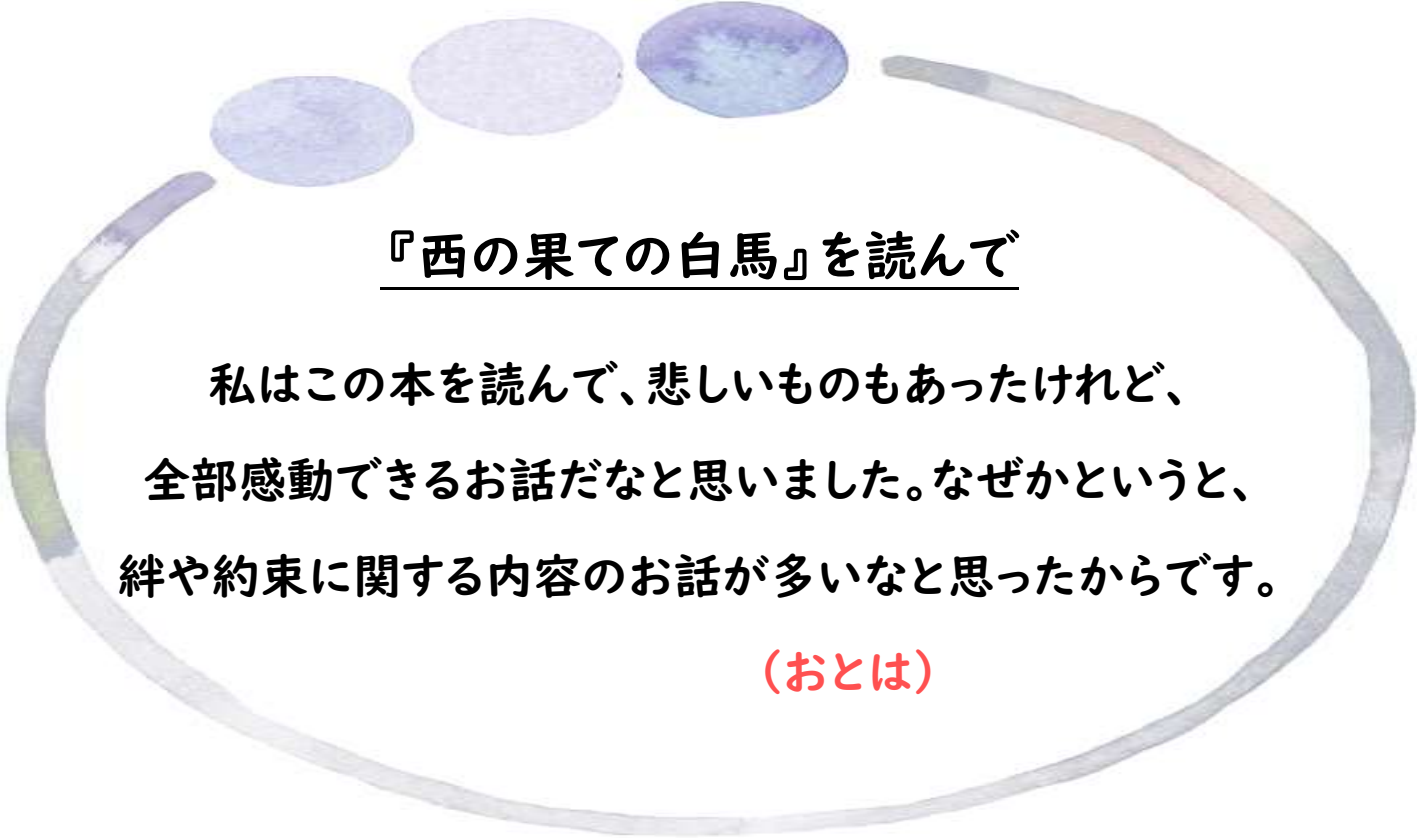
「巨人のネックレス」が一番好きだった。

いったいあの女の子はどこで亡くなってしまったのだろうか。

想像するだけで胸がずきりといたんで、悲しくなった。

「アザラシと泳いだ少年」も好きだった。

(はるか 0)



『西の果ての白馬』を読んで

私はこの本を読んで、悲しいものもあったけれど、
全部感動できるお話だなと思いました。なぜかという、
絆や約束に関する内容のお話が多いなと思ったからです。

(おとは)



『きみの話を聞かせてくれよ』を読んで

この本を読んで、どんな人でもそれぞれなやみがあるんだなと思いました。

なやみがなさそうな登場人物にもなやみがあったので、

クラスの子でもそういう子がいるのかなと思いました。

そんな子がクラスにいるかもしれないので、

黒野君のようになやみを聞ける人になりたいと思いました。

(ゆずは)



『きみの話を聞かせてくれよ』を読んで

短いお話が何個も入っていて読みやすかったです。

自分と重なるところもあり、とても良かったです。

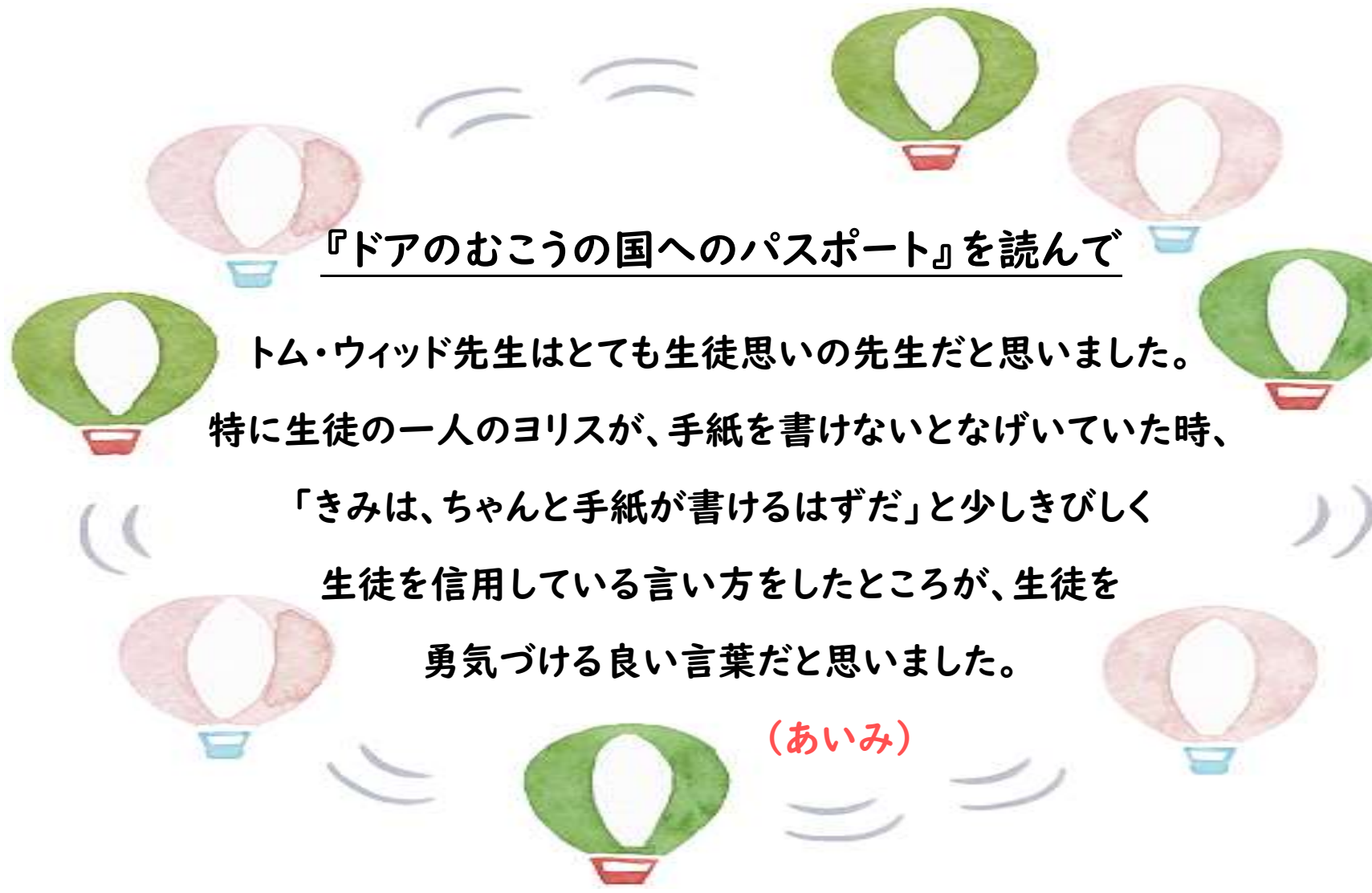
(あやの)



『きみの話を聞かせてくれよ』を読んで

最初は星野君が保健室登校をされていて、少し変な人なのかなと思いました。
でも、最後の「くろノラの物語」では、すごくいいことを言っていて感動しました。
「好きに生きろよ、野良ネコのように自由に」という言葉が、黒野君にぴったりだなと思いました。白岡六花ちゃんと春山早緑ちゃんは名前からして性格が違うのかなと思ったけれど、仲良くしておどろきました。途中、ケンカもしていたけれど、仲直りできたときはほっこりしました。この本の中に入って、
みんなと実際に会ってみたいです。

(ももか)



『ドアのおここの国へのパスポート』を読んで

トム・ウィッド先生はとても生徒思いの先生だと思いました。

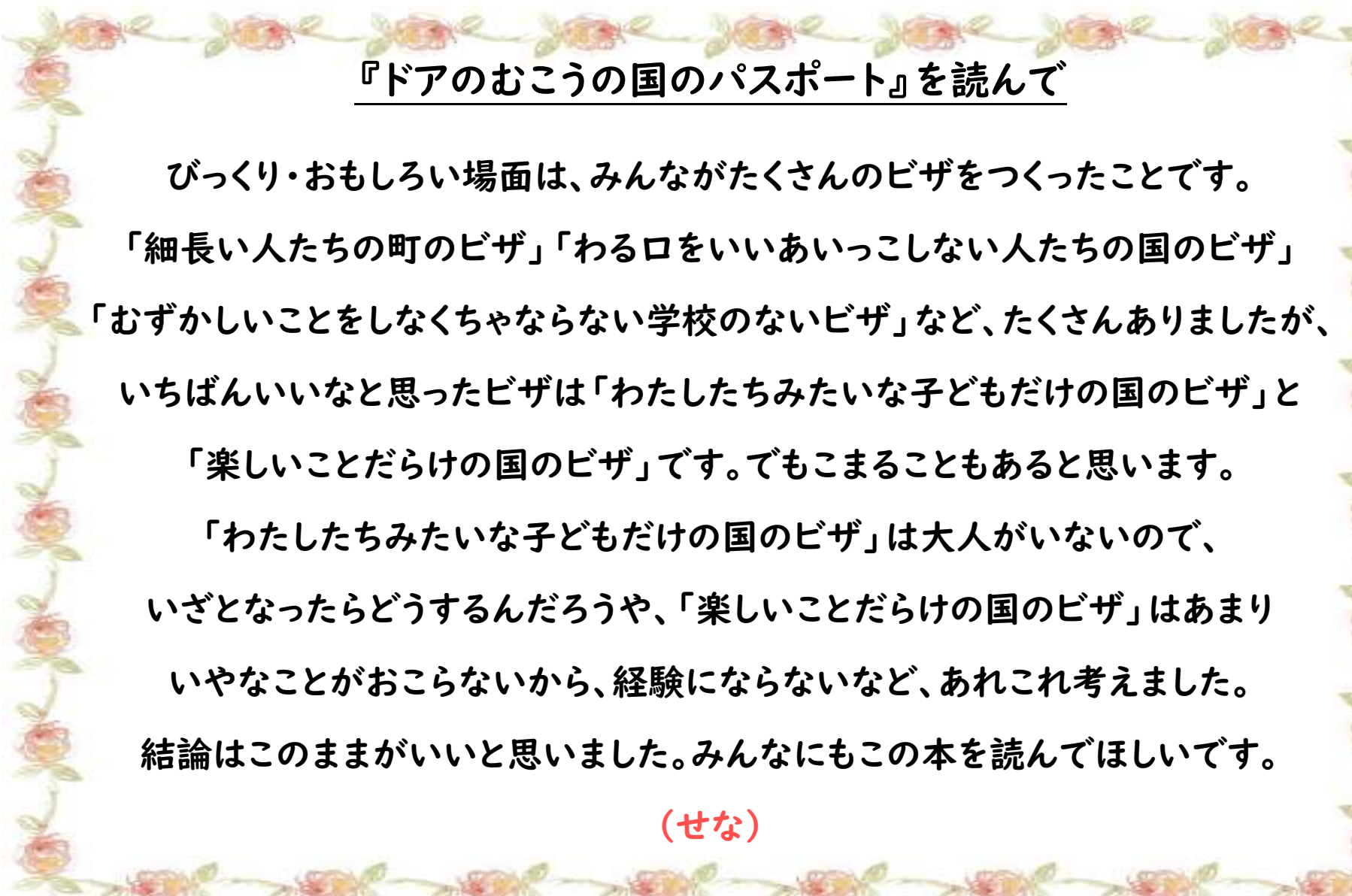
特に生徒の一人のヨリスが、手紙を書けないとなげいていた時、

「きみは、ちゃんと手紙が書けるはずだ」と少しきびしく

生徒を信用している言い方をしたところが、生徒を

勇気づける良い言葉だと思いました。

(あいみ)



『ドアのおここの国のパスポート』を読んで

びっくり・おもしろい場面は、みんながたくさんビザをつくったことです。

「細長い人たちの町のビザ」「わる口をいいあいっこしない人たちの国のビザ」
「おずかしいことをしなくちゃならない学校のないビザ」など、たくさんありましたが、
いちばんいいなと思ったビザは「わたしたちみたいな子どもだけの国のビザ」と

「楽しいことだらけの国のビザ」です。でもこまることもあると思います。

「わたしたちみたいな子どもだけの国のビザ」は大人がいないので、
いざとなったらどうするんだろうや、「楽しいことだらけの国のビザ」はあまり
いやなことがおこらないから、経験にならないなど、あれこれ考えました。

結論はこのままがいいと思いました。みんなにもこの本を読んでほしいです。

(せな)



『ドアのむこうの国へのパスポート』を読んで

私はラヴィニアのこの先はどうなっているのかなという
決めつけない考え方がかっこいいなと思いました。

(あやな)

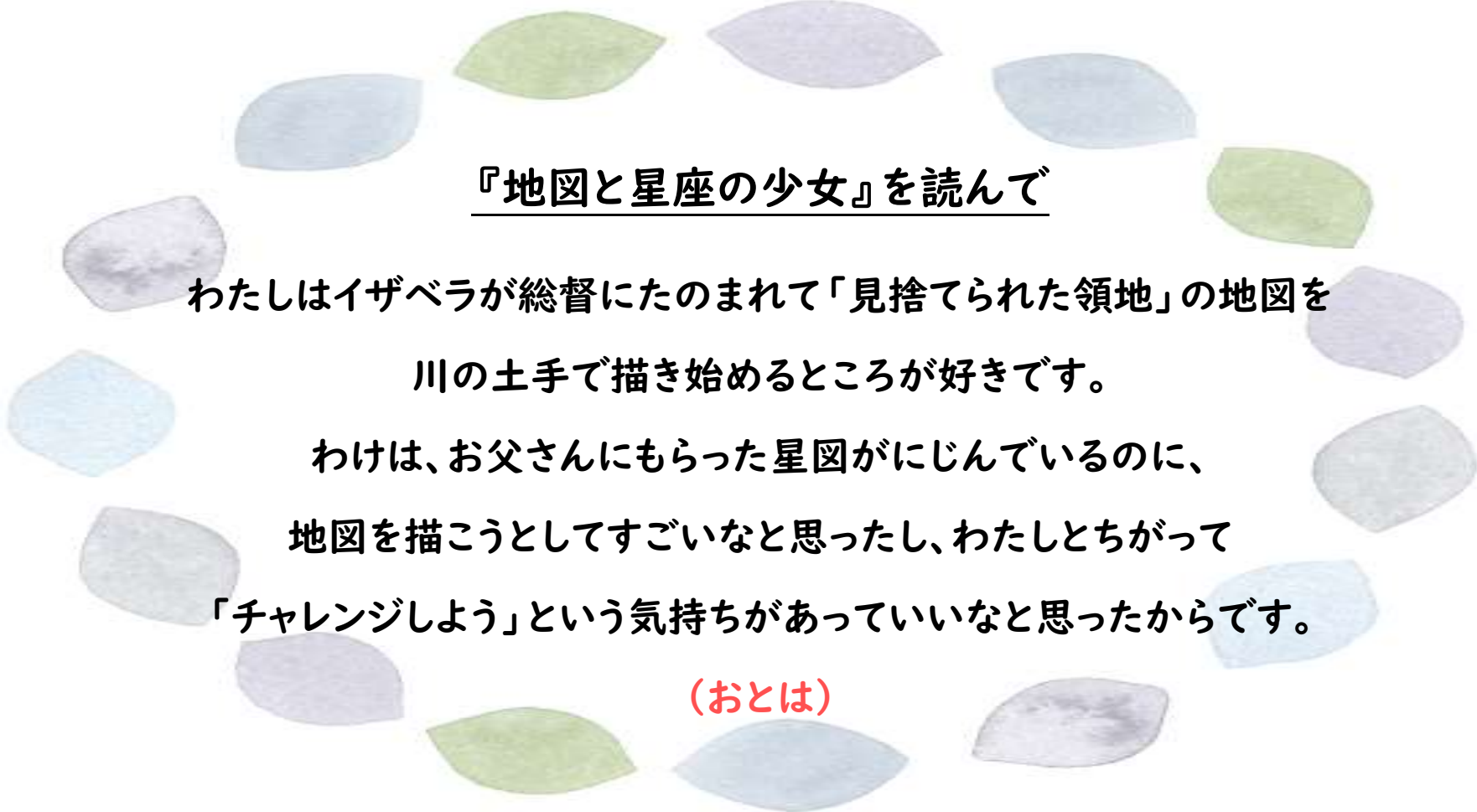


『地図と星座の少女』を読んで

私はループ・アドーリは、この物語に登場するアリンタのように
勇気と正義感のある人だと思いました。

そして、自分たちの住むジョヤ島のために、自分の命をすてる覚悟で
努力し続けた姿は、昔炎の魔物と戦ったアリンタの姿のようでした。

(あいみ)

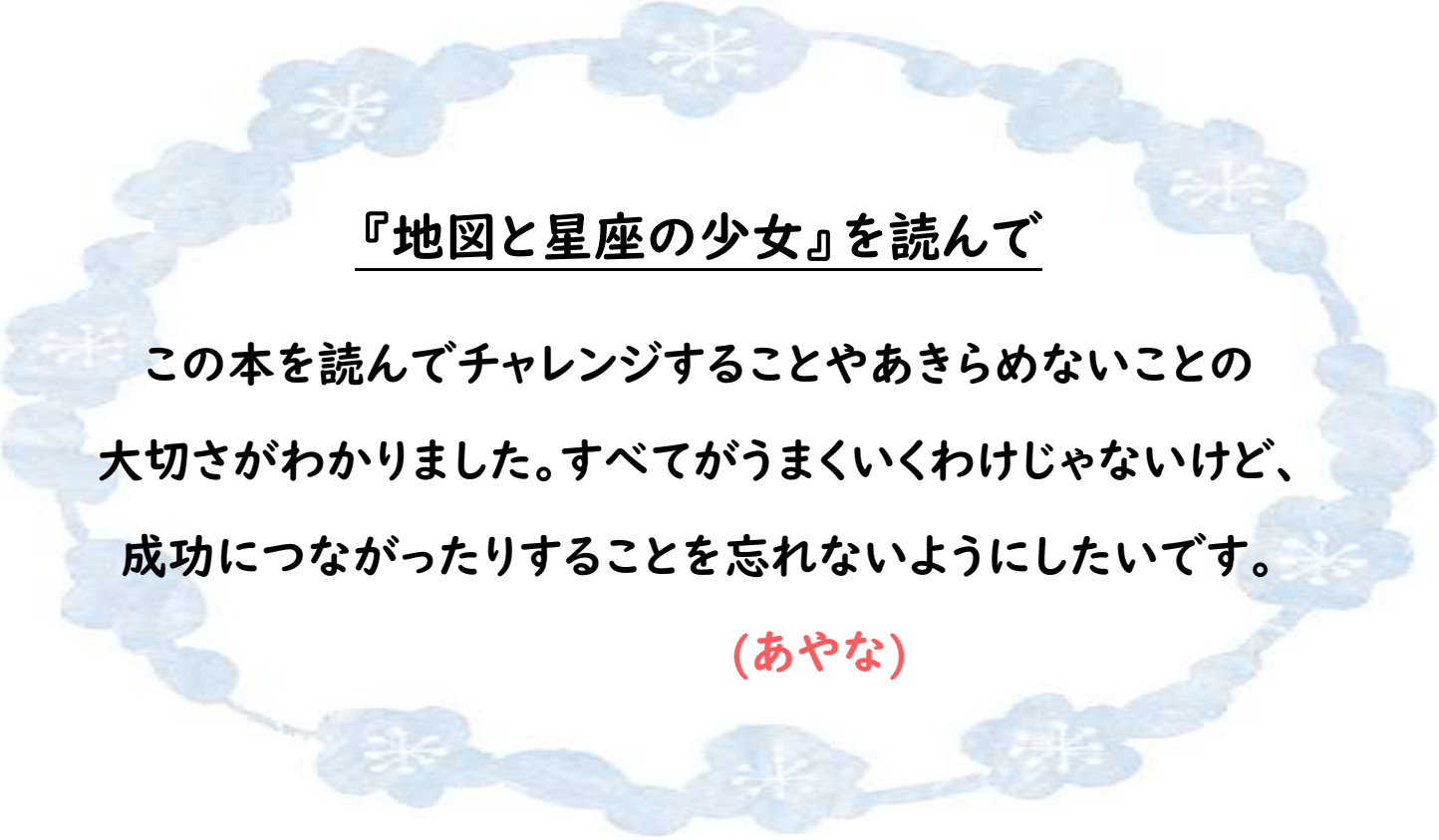


『地図と星座の少女』を読んで

わたしはイザベラが総督にたのまれて「見捨てられた領地」の地図を
川の土手で描き始めるところが好きです。

わけは、お父さんにもらった星図がにじんでいるのに、
地図を描こうとしてすごいなと思ったし、わたしとちがって
「チャレンジしよう」という気持ちがあっという間と思ったからです。

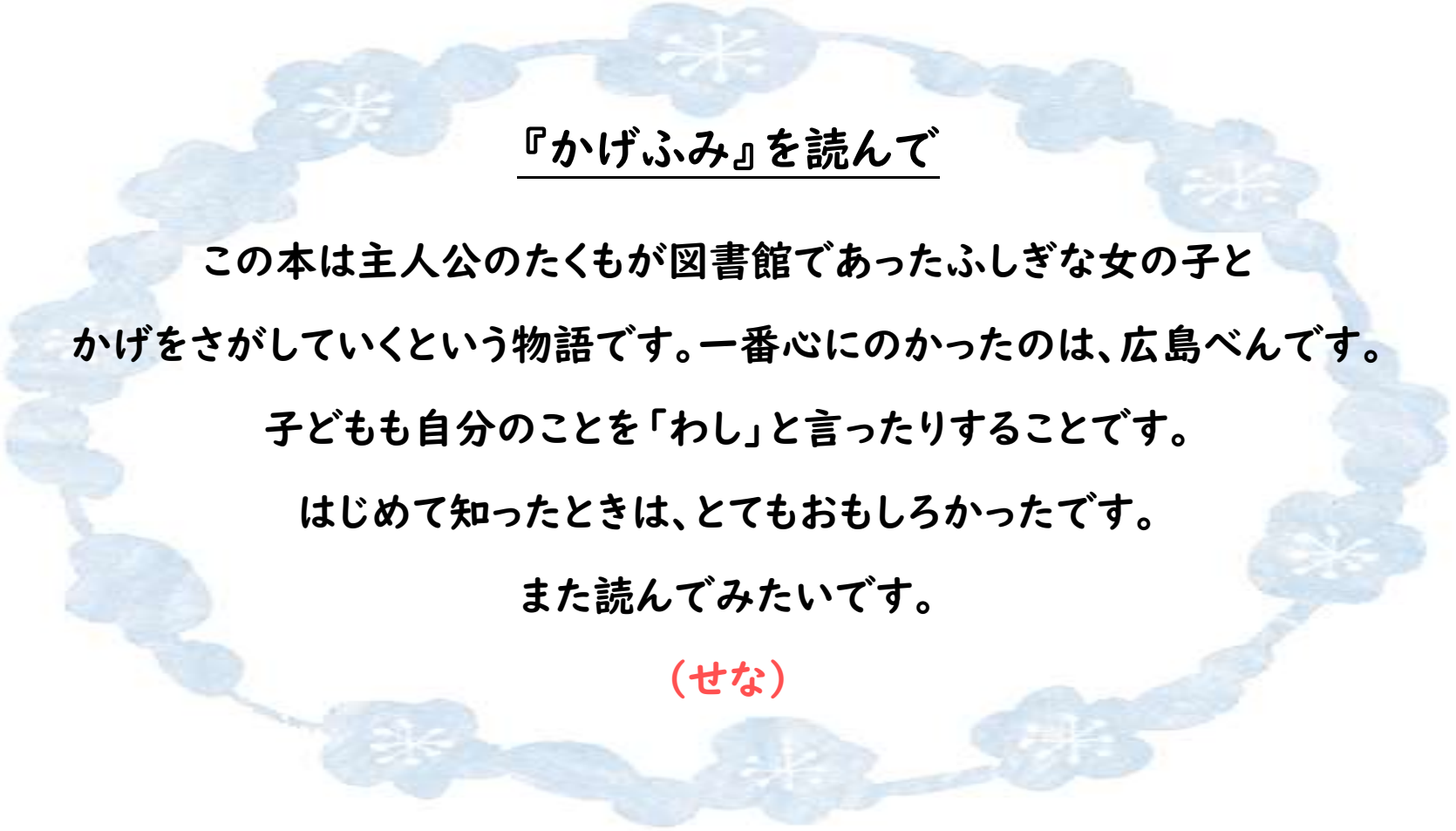
(おとは)



『地図と星座の少女』を読んで

この本を読んでチャレンジすることやあきらめないことの
大切さがわかりました。すべてがうまくいくわけじゃないけど、
成功につながったりすることを忘れないようにしたいです。

(あやな)



『かげふみ』を読んで

この本は主人公のたくもが図書館であったふしぎな女の子と
かげをさがしていくという物語です。一番心にのかったのは、広島べんです。

子どもも自分のことを「わし」と言ったりすることです。

はじめて知ったときは、とてもおもしろかったです。

また読んでみたいです。

(せな)



『かげふみ』を読んで

悲しいお話だと思った。

なぜ「かげの本」を探しているのかと思ったら、

広島にのこる核ばくだんのかげとそっくりで、

しょうげきを受けた。

(はるか 〇)



『ぼくたちのいばしょ』を読んで

この本を読んで、人は変われるということを知りました。

最初は日本語が全然しゃべれなかったサラダだけど、

じょじょに日本語がしゃべれるようになりました。

また最初はサラダをいじめていた里香たちだけど、最後にはおたがい
笑顔でおわりました。そんなサラダたちは自分たちのいばしょを見つけました。

わたしもそんないばしょを見つけたいと思いました。

(ゆずは)



『真昼のユウレイたち』を読んで

「海の子」がとてもせつなく、ユウレイとのきずなを感じ深く心に残りました。

なぜかという、海さんとその妹でユウレイの波さんがいっしょにくらしていましたが、

波さんが海の中に帰りたくなったとき、海さんは少しも止めようとはしませんでした。

このとき私は実の妹とはなればなれになるなら、絶対に止めると思いました。

でも、海さんは妹を好きなように生きていけるようにしようとする

姉らしい心だからこそ、このような行動をしたのだなと思いました。

(あいみ)

『真昼のユウレイたち』を読んで

最初、こわくて長そうなお話かなと思いました。でもおもしろくてすらすら読めました。

一つめの話「海の子」では波さんがユウレイということにおどろきました。

海っぽく部屋をかざってあげていて海さんはやさしいなと思いました。

私も海さんの家に行ってみたいです。そして特に印象に残ったのは、

二つ目の「対決」です。いろいろな人にいじめられていた千可ちゃんなのに、

なんでそんなに平気でいられるのかなと思ったら、亡くなったお父さんとお母さんが

ユウレイとして後ろにいてくれたから平気だということがわかって

すごく良かったです。「願い」や「舟の部屋」もおもしろかったです。

(ももか)



『真昼のユウレイたち』を読んで

私は、この本を読んで、特に「舟の部屋」という章に心を打たれました。
なぜかというと、「舟」という猫がうれしいになって、飼い主の「連」という
男の子に会いにくるというお話で、私も猫が好きなので
「連」がすごく嬉しいんだなと思ったからです。

(おとは)



『ぼくはうそをついた』を読んで

この本は原爆がおちた時のお話がでてくる本です。

私は、国語の授業で原爆のことを知っていたけど、

授業とはちがう視点で書いてあったので、

原爆の時の辛さや苦しさが分かる本だと思いました。

(おとは)



『ひと箱本屋とひみつの友だち』を読んで

最初この本はファンタジーの話かと思っていましたが、

中身を見てみたら心のバリアフリーでした。

4年生の総合の学習でちょうど今バリアフリーの学習をしています。

私が感動したところは、車椅子の理々亜のために

お店の人に心のバリアフリーにしてもらうようにあかりが頼んだところです。


そこでかたく結ばれている友情なんだなと思いました。

他にもこのような本を読んで、自分の未来に繋げていきたいです!


(そな)



『ひと箱本屋とひみつの友だち』を読んで



このお話の主人公の朱莉は、すごくやさしい性格だなと思いました。
でも、理々亜の「SHIORI」に置いてある虹色本屋の本を読んでから、
理々亜のはっきりした性格に似てきたんじゃないかなと思いました。



朱莉が陽菜に理々亜のことをだまっていた、その後どうするのかなと思いました。

でも、最後にみんなで仲良くサイン会に行った時は、
本当に仲良い友達なんだなと思いました。



(ももか)



『葉っぱの地図』を読んで

表紙を見た時はこわそうな本だと思ったけれど、
読んでみたら面白かったです。主人公のオーラ、
アリアナ、イドリスの3人が、そこまでつらい思いをしても
自然を守りにいくのがすごいと思いました。
協力していくところがかっこよかったです。

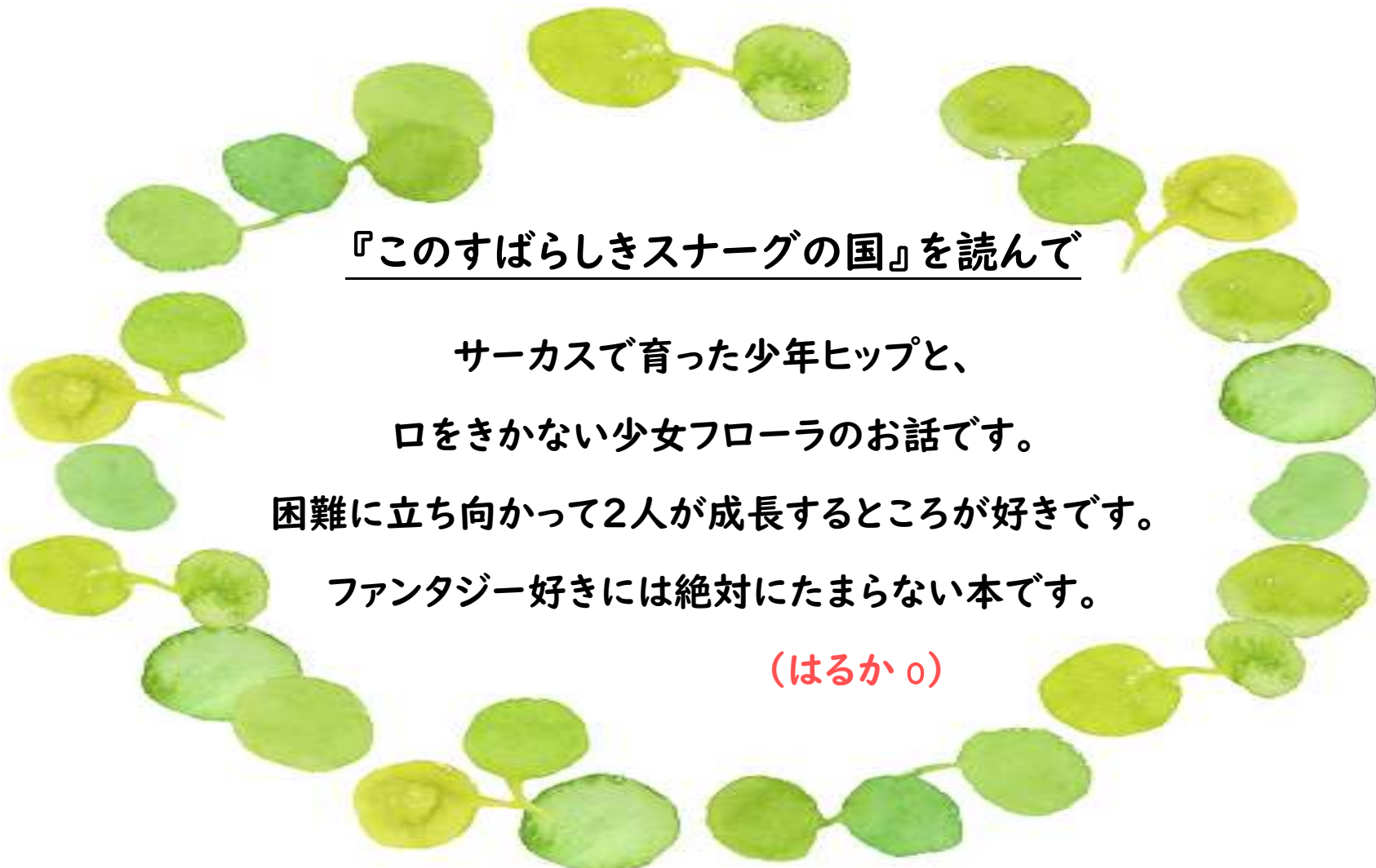
(そうし)



『葉っぱの地図』を読んで

葉っぱの地図は、ひとりぼっちの女の子が主人公だし、
表紙も暗い感じだったのではじめ少し退屈そうかなと思っていました。
でも、主人公のオーラはすごく行動力があって、一緒に船に乗り込んだ2人と
病気の謎の解明をするために川をさかのぼるうちに、
読んでいる僕も一緒に悪い大人と戦っている気持ちになっていました。
最後はすっきりする終わり方で、もう一度読みたくなりました。

(こうた)



『このすばらしきスナーグの国』を読んで

サーカスで育った少年ヒップと、

口をきかない少女フローラのお話です。

困難に立ち向かって2人が成長するところが好きです。

ファンタジー好きには絶対にたまらない本です。

(はるか 0)



『5分で本を語れ』を読んで

本好きな童夢くんは、読書部に所属します。

校内ビブリオバトルで、まさかの敗北をしてしまいました!!

相手はさくや。ほとんど本を読まないさくやに勝つため、色々な試練を超えるお話です。

私は最初さくやがきらいでした。けれど、お話を読むにつれ、

さくやの気持ちがわかってきて「たしかになあ」と思ったり共感しながら読めました!

この本はちょっと難しいお話でしたが、その分とても面白かったです!

皆さんもぜひ読んでみてください。 (そな)



『アオナギの巣立つ森では』を読んで

私は、この本に出てくる「^{なぎ}榎」のように、
オオタカのヒナを守りぬくような強い心を持ちたいなと思いました。
なぜかという、強い心を持っていれば、自分に自信がつくと思うし、
オオタカのヒナのような大切なものを守れると思ったからです。

(おとは)



『ブラックバードの歌』を読んで

大切なものを失った女の子と鳥が音楽を取り戻すお話です。
女の子が鳥を元気付けるために、今まで吹かなかったフルートを
きかせてあげるところがすき。

フルートの音色を隣で聞いているみたいに感動しました。

(はるか o)